

LESSON 30

次のスプリントで最優先で取り組むべきTryは、「次回の振り返りミーティングに必ずPM（橘さん）を参加させる（担当：大森さん）」です。

選定理由：議事録の最後で、担当者と期限（次スプリント冒頭まで）が明確に設定され、今回のミーティングで唯一確定した具体的な改善アクションであるためです。「誰がやるかを明確にせず、結局誰もやらない」という過去3回連続で続いている失敗パターンを脱却するための重要な第一歩となります。

Problem（課題）との関連：現在チームが抱えている深刻な課題の多くは、PMが話し合いの場に不在であることが解決のボトルネックになっています。具体的には以下のProblemと直接関連しています。

- ・仕様確定の遅れとQAの逼迫：リリース前日までテストがギリギリになる問題に対し、「スプリント開始の3日前までに仕様を確定させる」というルール of 提案が出ましたが、PM不在のためその場で決定できませんでした。
- ・テスト自動化の長期的放置：QA工数を圧迫している手動テストの問題を解決するためには自動化の環境整備が必要ですが、これには初期コストがかかります。現状の機能開発の合間に余裕を見つけるのは難しく、PMの了解を得て優先順位を調整しなければ着手できない状態です。
- ・スケジュールの相談しづらさ：チーム内でスケジュールが厳しいと気づいていても言い出しにくい雰囲気があり、PMとスケジュールや見積もりについて直接交渉し、調整する場が機能していません。

このように、PMをミーティングに巻き込むというこのTryを実行しなければ、仕様変更のタイミング調整やテスト自動化のための工数確保といった他の重大なProblemの改善が一切進まないため、最も優先度が高いと言えます。

この最優先のTryを確実に実行するために、大森さんがPM（橘さん）に送るメッセージの文面案や、次回のミーティングに向けたアジェンダのたたき台を作成しましょうか？